

平成 30 年度 第 8 回 名取市総合教育会議 議事録

1 会議の年月日

平成 30 年 11 月 29 日（木）

2 会議の場所

名取市役所 6 階西側会議室

3 出席者

山田市長

瀧澤教育長、佐藤教育長職務代行委員、相原教育委員、浅野教育委員、洞口教育委員

4 欠席者

なし

5 傍聴者

なし

6 説明のために出席した者

相澤教育部長、大友教育部次長兼庶務課長、大友理事兼学校教育課長

森生涯学習課長、渡辺文化・スポーツ課長

齋藤教育部企画員兼庶務課長補佐、高橋主幹兼庶務係長

7 議題

(1) 「地域学校協働の取り組みについて」

(2) 「家庭学習と生活習慣に関する取り組みについて」

8 開会時間

午後 1 時 00 分

9 会議の概要

大友教育部次長兼庶務課長

それでは定刻となりましたので始めさせていただきます。

会議に入ります前に、お手元にご用意をいたしました資料の確認をさせていただきます。1 枚ものの「第 8 回名取市総合教育会議次第」と、クリップ留めをしております「第 8 回名取市総合教育会議資料」の 2 つを用意しております。不足がありましたらお教え願いたいと存じます。よろしいでしょうか。

また、本日の会議は、原則公開となっておりますので、ご了承願います。

それでは、只今より第8回名取市総合教育会議を開催いたします。開催にあたりまして、山田市長よりご挨拶を申し上げます。

山田市長

本日は、大変お忙しいところ教育委員会の委員の皆様にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、10月1日には、武田堆雄教育長職務代行委員の後任として佐藤俊隆教育長職務代行委員に就任していただいております。佐藤教育長職務代行委員には、名取の市民、子供達の教育のためにご尽力いただきますよう改めてお願い申し上げます。

さて、現在名取駅前再開発事業地内に再建中の新図書館・増田公民館であります。先日引渡しも無事終了し、引越し作業も順調に進んでいると聞いております。

新図書館と増田公民館は、駅前という立地の良さに加え、市民に待ち望まれていた施設ということもあり、たくさんの利用者が訪れる施設になるものと思っております。

いよいよ来月19日には、グランドオープンを迎えますが、ペDESTリアンデッキは1日朝5時30分開通するので一番先に渡りたい方はぜひ早めにお越しください。名取駅前の顔となる公共施設でありますので、大きな期待をもってオープニングイベントを教育委員の皆さんと一緒に迎えたいと思います。

本日の総合教育会議につきましては、テーマを2つ準備させていただきます。

社会教育分野から「地域学校協働活動の取り組みについて」、学校教育の分野から「家庭学習と生活習慣に関する取り組みについて」であります。

委員の皆様方から忌憚のない御意見を賜(たまわ)りたいと考えておりますので、限られた時間ではございますが、よろしくごお願い申し上げ、簡単ではございますが、挨拶(あいさつ)とさせていただきます(以上)

大友教育部次長兼庶務課長

それでは、(3)の議題に入って参ります。ここから先は、「名取市総合教育会議設置要領の第4条第3項」により、市長が議長として、議事をすすめていただきます。

山田市長、よろしくご願いいたします。

山田市長

それでは次第に沿って進めてまいります。よろしくご願いいたします。

まず、はじめに(1)「地域学校協働活動の取り組みについて」であります。

国では「幅広い地域住民の参画(さんかく)により、地域と学校が連携しながら、地域全体で子供の成長を支え、地域を創生する活動」を推進することとしており、本市では来年度より一部の地区で取り組みを予定していることとあります。

本日は、これから本格的に活動を始める予定の「地域学校協働活動について」理解を深め、意見を交換して参りたいと思います。

はじめに、事務局から資料に基づき説明をお願いします。

森生涯学習課長

「地域学校協働活動について」について説明させていただきます。

それでは、お手元に準備させていただきました資料集の資料1「地域学校協働活動の取り組みについて」、(1ページから)ご説明申し上げます。

<説明>

#### 1. 背景

近年、子供達を取り巻く環境は大きく変化し、地域住民同士のつながりの低下、家庭の孤立化、学校に対する保護者のニーズの多様化、子供をめぐる教育課題が複雑化・困難化していることに対し、社会総掛りに対応することが求められています。そのため、地域と学校がパートナーとして連携・協働するための組織的・継続的な仕組みが必要不可欠です。

こうした背景を踏まえ、平成29年3月に社会教育法が改正され、教育委員会の事務に地域住民と学校の連携協力体制を整備する義務規定や、地域学校協働活動推進の委嘱に関する規定が整備されました。

#### 2. 地域学校協働活動の概念(文部省資料から抜粋)下の方に

地域学校協働活動の概念図

学校教育・家庭教育・社会教育より多くのより幅広い層の地域住民・団体等が参加して目標を共有し「穏やかなネットワーク」を形成。

社会教育・家庭教育・学校教育に関係すると言うことで地域学校協働活動があり学校支援・土曜日放課後活動等があります。地域の団体としてPTA・NPO等があります。

#### 3. 地域学校協働本部の整備

※地域学校協働本部の役割

地域学校の双方向の「連携・協働」を推進し「個別」の活動からネットワーク化した組織であり、次のような役割がある。

##### ① コーディネートの役割

学校側からの教育活動への支援要請に対し、地域の適切な人材に依頼し学校に派遣する。また、地域から学校への依頼に対し学校と調整する役割も担う。

##### ② 地域学校活動を継続的なものとする役割

継続的な地域学校協働活動は、子供達が地域の課題を自分のこととして捉え、その解決に向けて自ら考え行動する力の育成や、地域住民の知識や経験を活用することで地域の教育力の充実に資する観点から重要である。

下の図ですが

地域学校協働本部の役割として

右手に学校・左手に活動に関わる多様な地域住民、PTA・自治会が関係しています。

#### 4. 地域学校協働活動推進員及びコーディネーターの配置

(1) 教育委員会に地域学校協働活動推進員1名を配置(委嘱)する。

(役割)

ア 教育委員会の施策を具現化するため、各地域学校協働本部への情報提供、助言を行う。

イ 地域コーディネーターおよび統括コーディネーターの連絡調整、助言研修会の提供

- (2) 各小・中学校区に地域コーディネーター1名を配置（委嘱）し、中学校区の地域コーディネーターは統括コーディネーターを兼務する。また、業務教育学校区は、地域コーディネーター2名を配置し、内1名が統括コーディネーターを兼務する。

（役割）

ア 地域学校協働本部の事務局を担う。

イ 地域と学校の連絡調整を行う。

ウ 統括コーディネーターを兼務する地域コーディネーターは当該中学区内の地域コーディネーター間の情報交換や連絡調整、必要な支援等を行う。

## 5 （仮称）地域学校協働活動検証委員会の設置

ア 構成 校長会代表、地域住民代表、青少年健全育成会代表及び行政職員等で構成する。

イ 役割 各地域学校協働本部の活動を受け事業の評価を行い、教育委員会に対し、意見・提言を行う。

## 6 実施に当たって

### (1) 地域の公民館による支援

地域学校協働活動は、地域と学校が連携・協働して、社会総掛りで子供達の学びや成長を支える活動である。その活動で必要となる学習資源や人材の情報は地域の核である公民館が最もよく把握している。

そのため、地域学校協働本部の立ち上げから、地域学校協働本部の継続的な活動に公民館の支援が必要である。

### (2) 地域学校協働本部の立ち上げについて

各中学校区の協働本部立ち上げは、平成31年度から3年以内で行うことを原則とする。

#### ア モデル校の指定

本校の立ち上げについては、市全域一斉に行うことが望ましいが各学校の実績もあることから、地域コーディネーターとなる人材の確保ができた学校から教育委員会がモデル校に指定し、本部の立ち上げ支援を行う。

※年度途中でのモデル校指定も可能とする。

イ モデル指定校での地域学校協働活動の取組状況を随時（仮称）地域学校協働活動検証委員会が検証し、その結果改善が必要な事項は改善していく。

モデル指定校の指定ですが31年度に関しては3校として考えています。3校の考え方は現在事業を行っているところで手あげ方式で1校、地域学校協働活動から期待される学校1校、公民館でコーディネートして頂ける学校1校、3校をモデル地区として取り組んでいきたい。

## 7 名取市の地域学校協働活動のイメージ図

3年間ですべての中学校区に地域学校協働本部を設置した場合、中学校区単位に統括コーディネーター1名、小学校の場合は地域コーディネーターを1名ずつ配置するというイメージです。左側は増田中学校のモデル、右側は小中一貫校のモデルとして示しているもので

す。地域住民等と学校との連携協力体制の整備、普及啓発活動等の措置。地域学校協働活動推進員の配置（委嘱）ですが、31年度につきましては、生涯学習課の方で指導していきたいと考えております。「地域学校協働活動の取り組みについての説明」は以上です。

山田市長

ただ今、説明がありました。

皆様から、ご意見・要望などをいただければと思います。

今の説明で分かりましたでしょうか？

名取市では教員補助者が16名 特別支援教育支援36名 加配で43名 その他スクールカウンセラー・ソーシャルワーカー・訪問指導員など、かなり厚みをもって子供達の学びと成長を支える環境はあります。それでもなお、様々ないじめ・DV・不登校・学力・体力・SNS障害などがあり、学校の先生方が子供達と向き合う時間がなかなかとれない中、授業の質の向上等それぞれ頑張っており、まだまだ支援が必要な状況にあります。

また、教員の働き方改革もあって、地域のなかで学校を支えていかなければいけないという背景も踏まえ、今回の地域学校協働活動の取り組みを進めていくことになろうかと思えます。その意味で、一番近い所に居た佐藤委員から、何か考えや意見があればお願いします。

佐藤教育長職務代行委員

大震災の時を振り返ると、子供が登校を再開した時に街全体に活気が戻ってきたなと白石の学校に勤めていた時にすごく感じました。子供は家庭の宝、地域の宝だと感じており、その辺、地域と連携しなければと思っています。

学校の多忙な状況があり、学校からこんな人が欲しいと働きかけ、支援頂くことは大いにやって頂きたい。このような方を呼びたいと言ってもお金が無い場合もあるので、その辺のサポートして頂きたい。地域の方から、このようなことはどうですかと言われても、さばくのは難しいと思います。

山田市長

支援のマッチングですね。

佐藤教育長職務代行委員

余計な活動はしたくないと断り続けると、学校の教育そのものが豊かにならないので、提言を頂きながら、選んで取り入れて行こうという形は良いと思います。そのように、上手く仕事量あまり増えない形で、ソフトランディング出来れば良いのかなと思っています。

具体的に31年度から始まるわけですが、3校3地区ということで、想定しているのは増田中学校区から取り組むということですか。

生涯学習課長

想定として説明したところです。3校3地区ということで、手上げ方式で2校お願いし、もう1

校は公民館にコーディネーターの役割をしてもらい、3地区で実施したいと考えています。

瀧澤教育長

どのような形になるかイメージして作成した表で、具体的にはこれからとなります。

山田市長

校長先生との懇談会をしたときに意外に関心があり、3地区とも学校で手をあげそうな雰囲気もあると感じています。

瀧澤教育長

今の佐藤委員の意見と関わりますが、学校教育のなかに地域連携で地域住民の力を借りなければいけないと言うことは以前から言われており、実際、地域の方の力をお借りし、いろんな教育活動を実施しています。

私は小学校ですが、特に社会の授業などで、農村地区の学校の時は、農家の人たちに随分協力を頂きました。北原地区でパラオから引き上げてきた方が開拓した集落で、今テレビで話題になっていますが、郷土を開いた人々の協力で取材をやってきました。

課題として1つは、なかなか継続して出来ないことで、先生が異動で学校が変わってしまい、また一から探して連絡を取ってやらなければならないことがあります。また、ある学校では、人材バンクみたいなものを作り、学校の先生方が共有している学校もありました。それを更新していないと意味が無いので、5年前に作った資料で使えなかったりすることもあります。

もう1つは、学校でこのようなことで地域の人の力を借りたいという思いと、地域の人が学校で子供達に、このようなことを教えたいという思いが上手く噛み合わない場合もあります。地域の人がこんなことをしたいと言っても、学校側でなかなか受け入れることが難しいケースや、学校側でこのようなことをして欲しいと思っても、思いが伝わらないこともあります。そのような点から、学校と地域をコーディネートする人や、組織がしっかりしていれば、継続性やマッチングの点が良くなると思います。

ただ学校では、今多忙な状況で、今朝のNHKのニュースで学校での働き方改革をやっていましたが、無理に形だけ作って、これでやってくれと言っても、先生の多忙化解消のねらいがあるのに、より拍車がかかることに成りかねないと思っています。

まず、生涯学習課から説明があったように、やれるところからまず来年度3校で取組み、課題を整理しながら全部の学校で同じ組織の形を作るのではなく、柔軟に考え先程の資料にもあったように、緩やかなネットワークを意識していくのが良いと思っています。

山田市長

浅野委員、何か地域側としてご意見等があれば

浅野委員

29年度3月という時点で、学校の先生も地域との協働をしないといけなくなり、専任の先生が決められたと教頭先生から聞きました。その後、先生方は研修を受けていると思いますが、その

土台があり行政と関わって地域協働が段階的に進んできたと思っています。

私が小学校側から、地域の人にお手伝いをしてもらえないかと言われた時、地域にどのような得意なものを持っている人がいるか、サークルに携わっている方も含めて考え、いろいろな人にお声がけし支援に入ってもらいましたが、学校から求められた支援でしたので、先生の負担が軽減されたと実感したし、それに参加した方々も、たとえば子どもの手が離れ学校に全然関わることもなく、このような形で携わりとても楽しかったと言われたので、このように学校の要望に合えば、喜んで参加して頂ける方がたくさんいるのですごく良いと思います。

この事業を継続的に活動していくにあたっては、地域の公民館での支援と言う文章があるので、良いと思っています。団体がそれぞれ先生方とやり取りして行くと、大変なので息切れをしてしまい頓挫するようになりますが、安定した土台という形での公民館の支援があることにより、継続していけるとと思っています。

3ページの実施に当たってと言うところに、地域の公民館による支援で継続的な活動ということで、公民館がしっかりバックアップすることが大事で良いことだと思いました。その他、人材のコーディネーターの確保はどのようにするのかわからないので、後で聞いてみようと思います。

#### 山田市長

先程、教育長から継続性と支援のマッチングの課題について言われた時に、継続性については公民館の支援が非常に影響が大きいと、良いヒントを頂いたと思います。やはり、学校と公民館そして地域とどのようにして連携して行くか、双方、特に教育委員会の中でも生涯学習と学校教育の部分で、綿密に連携できていると言われると、なかなかそうではないと思いますので、学校と公民館と同じ地域の中なので、連携が大事だと思います。

コーディネーターの確保についてはどうですか。

#### 生涯学習課長

コーディネーターの確保については、校長先生と連携について、地域と学校、公民館館長からのご意見を聞き、地域の方からもご意見等を頂く機会を設けながら、コーディネーターをお願いするというように考えています。

#### 山田市長

私が知っている地域で、コーディネーター等をやっている方がおり、ミシンのお手伝いをお願いされてミシンのやり方を教えています。学校から求められている支援だと、先生方の心証が良くお互いにやり易い気がしており、コーディネーターの方に過度の負担がかからないようどうするか、という視点が必要となってくると思います。

#### 相原委員

教員の負担をどうするかが発想のなかにあります。逆にコーディネーターがきちんと役割を果たしてもらわないと、コーディネーターが学校に行って先生方にどんな人材が必要かを聞いて、それを職員会議で決めるということになると、会議が遅れて働き改革どころじゃないかと逆の心

配があります。

そうではなく、コーディネーターを公民館にきちんと位置付けし、そこで、地域で持っている組織やこう言う人材がいるので、先生方に人材を選んでもらい、常にそのデータを更新し学校に提供していく形まで行かないと、学校の先生の負担軽減にはならないと思います。

新たに負担が増えて行くのではと逆の心配がありますが、やることは良い事なのでコーディネーターをどう言う位置付けにして、どのように支援して行き枠組みを作れるかと言うのが大事だと思います。

先生方は、転勤等で代わって行き、その地域に始めて来る方が、コーディネーターに相談をするというやり方が良いと思います。学校できちんとメニューを示してもらい、そうしたら私たちが地域で人材探しますでは、逆に先生方が大変ではないかと感じています。

山田市長

コーディネーターについては、モデルとして今回学校に配置した場合と、公民館へ配置した場合で行ってみたいということで、来年度位置付けはどうなるのでしょうか。

生涯学習課長

先程のイメージ図で教育委員会の方に、地域学校協働活動推進委員のコーディネーターの指導の職員の配置を考えています。31年度につきましては生涯学習課の職員がコーディネーターの支援をしていきたいと考えております。

山田市長

生涯学習課の方で、主体で行っていくとの事です。

洞口委員、今までの中でご意見があればお願いします。

洞口委員

学校は、大変忙しい日々を先生方が送っているということは私達も十分わかっています。

この事業を継続することが、とても大事だと思います。2、3年で終わるのではなく、長く続けるにはコーディネーターは地元で長く住んでいる人から選ぶのが最初は必要だと思います

例として増田中学校・増田小学校・下増田小学校と掲げてありますが、例えば増田中学校で、今何が地域の方で必要なのか、教養なのか歴史なのか、地元の方々が得意とする方、ある程度話が出来方などについては、公民館で一番人材を把握しています。

私も携わっていますが、子供達にいろんな体験や経験などをしてもらうために、今、全国的にやられている、子供食堂などを立ち上げ、月1回食事を終わった後、地域の歴史とか色々な話をしてもらうということから始めると、スムーズに行くのではと思います。それも、学校との連携が必要になってくると思います。

山田市長

人材は公民館からという事ですね。子供食堂については、まだ市でのスタンスが決まっていないところです。

教育長、何かありますか。

瀧澤教育長

全国的にいろんな所で取り組んでいますが、運営が非常に難しいところがあります。子供達の貧困問題だけではなく、子供達の食育とかの観点から取り組まれています。直接教育委員会が子ども食堂に関わることに課題はあると思います。洞口委員が中心ですよ。

洞口委員

来年4月から、下増田で立ち上がります。

瀧澤教育長

取組は承知していますので、洞口委員から情報を聞きながら教育委員会でも関わることができるのか、私も考えていきたいと思っています。

山田市長

地域学校協働活動の話聞いてきましたが、具体的にこれからの進め方について、みなさんからのご意見ご要望がありましたら。

浅野委員

コーディネーターは、校長先生や館長、地域からの推薦という形で、この人が良いのでは名前があがってきた時、その方は何の研修も無くコーディネーターをやるのではなく、指導はあると思いますが、地域学校協働活動養成講座があると安心というか不安がなく出来ると思います。

来年度は3校やるということであれば、とりあえず良いと思いますが、その後、順次全体で行く時に、その人がそれぞれのやり方で行ってしまうとバラツキが出てしまい、やはり養成講座があれば、公民館の職員も出来れば一緒に受けると、コーディネーターの考えも汲み取ることが出来ると思います。

先程、相原委員が言ったように、地域のことが分かっている方がやるのが一番ですが、それでも運営の仕方、学校と教育委員会のやり取り等決まった流れがあるとやり易くなると思います。

山田市長

コーディネーターに対する教育・指導・支援のあり方について、また、養成講座という具体的な話を頂きましたが、養成講座は良いと思います。話が違いますが、地域力向上の養成講座を公民館でやっていますが、それで、きらきらぱるく・もりあげ隊・でんでんでん等地域の団体が出来てきて非常によく活動していると認識しています。そのような意味でも、今回コーディネーターを養成することは、ただ人を出してくださいではなく、このような人を求めている・このようなことをやりたいということ、教育・指導・支援する体制をつくるのが大事だと思います。

いかがでしょうか？

相原委員

それが大事だと思います。地域学校協働活動検証委員会で常に見直しをしていく。最初はこんな趣旨でこんな事をというのは、当然考えていると思いますが。

瀧澤教育長

コーディネーターの方にどこまで役割をお願いするか、というのがこれからだと思いますが。学校と地域の間にとって橋渡しをして行くとなると、いろんなノウハウや力を求められると思います。その人の働きしだいでは、地域や学校もかえってとなっては意味がありませんので、このような事をしてもらおうと言う具体的な説明会や研修会が必要です。

これは、県の教育委員会で出しているテキストですが、コーディネーターの養成講座という既存のものがあるか分かりませんが、名取市として、全部の学校でコーディネーターをお願いするとなると、きちんとそこまで考えて生涯学習課の中でやらなければいけないと思います。

相原委員

待遇や身分の位置付け、公民館での位置付け手当ては、具体的にどのようになるのでしょうか。

生涯学習課長

考えているのは、学校については4時間程度週2回ということの基本として、学校地域の連携を取って頂きたいことをお願いしたいのと、公民館については、業務の中で地域学校協働活動について業務を行いたいと思っています。

山田市長

学習支援員を想定しているのでしょうか。

生涯学習課長

公民館職員ということで考えており、館長、事務長、支援員ということを考えています。

瀧澤教育長

館長についてはどうかと思いますが、まずは、支援員に役割を担って頂きやってみてと思っています。

来年度検証するということもあり、理想を言えば公民館の人数を増やして業務をお願いするというやり方も考えられますが、まず来年度やってみてどこまでやれるかですね。

山田市長

コーディネーターに対して教育・指導・支援の体制が必要だということで、全体でしっかり育成し検証して行く体制づくりが必要という意見だと思います。また育成養成は、県のメニューで探せないかを含め検討して頂いて、今回は学校に配置した場合と公民館に配置した場合の2種類をモデルとして検証して行くことですね。ご意見ありがとうございました。

他にご意見などがございませんか。

佐藤委員

確認ですが、3校という話が出ていますが、3地区でしょうか。

生涯学習課長

まずは、学校から2校で、中学校から1校小学校から1校あげて頂き、該当しない地区から公民館にお願いしたいと考えております。たとえば増田中学校と館腰小学校があがれば、手を上げない地区の公民館にお願いしたいと考えております。

瀧澤教育長

質問の趣旨として、こういうのを一つとして考えるのかということですが、学校で3校、実際関わるのが15校のうち3校のみとなります。

山田市長

以上で終わりとさせていただきます、次の議題に移ります。

次に、(2)「家庭学習と生活習慣に関する取り組みについて」を議題といたします。

山田市長

教育委員会では、名取市の将来を担う子供達の「確かな学力」の向上を図ることをねらいとする様々な事業に取り組んでおり、その一環として、一昨年から研究主任の先生方が先進地である秋田県湯沢市を視察していると聞いております。

そんな中、昨年度は研究主任者会が中心となり、市内共通の「学習の手引き」が作成され、今年度は「生活習慣表」の作成に取り組んでいるとのこと。

学力の向上は、教師はもちろんのこと保護者の切なる願いだと思います。

今回は、「家庭学習と生活習慣」の取り組みについて理解を深め、意見交換をして参りたいと思います。

まずは、資料に基づき、事務局から説明をお願いします。

学校教育課長

学校教育課の大友です。

それでは、資料集の資料2・3に基づき、ご説明申し上げます。

市長からお話がありましたように、平成29年度に研究主任者会からの発案で、名取市立小・中学校共通の家庭学習の手引きを作成し平成30年度から各学校に配布し、実践を進めています。秋田県の視察で、家庭学習が充実していること、小・中の連携が図られていることが視察を通して感じとることができました。

子供にとって、自分だけでじっくりと学びに取り組むことのできる大切な場が家庭であり、家庭は、学ぶ子供達にとって学びの最良の応援団となります。子どもたちが、家庭で落ち着いて勉

強できるような環境をつくり、学びの習慣付けを図ることが大切です。

資料左側には、発達の段階に応じた保護者の関わり方を示しています。低学年では家庭学習の習慣をつける。学年が上がり小3・4・5年生ではやる気を引き出す。小6から中学校については自ら学ぶ姿勢を育てる。右側にはこんな学習を宿題との関連で具体的にこのように進めていくといいですと示したものです。

宮城県でも学力向上の5つの提言と言うことで5点目に家庭学習の時間を確保することと述べており、家庭での復習や予習などが授業での理解を進めます。各学校で作成している「家庭学習の手引き」の中に、家庭学習のメニューを具体的に記載しています。このような形で家庭学習を具体的に進めていくことが子供達の学びの習慣化を高めるということで「家庭学習の手引き」を作成しています。

資料3をご覧ください。名取市立小・中学校共通の生活習慣表を本年度同様に研究主任者の先生方が作成を進めており、平成31年度より各学校に配布を予定しております。家庭での不規則な生活が要因となって様々な問題が発生しているのが実情です。その改善を図り規則正しい生活の継続していくことが子供達の健やかな成長、確かな学びに繋がるという観点からこのようなものを作成しています。

「早寝・早起き・朝ごはん」の取組、県では「るるぶる」運動というものを進めていまして、「よく寝る・しっかり食べる・元気よく遊ぶ・そして伸びる」その観点から「あいさつ、睡眠、食事、登下校、テレビ・ゲームの関わりパソコン・携帯電話SNS等の問題も生じており、その他ということで7項目の発達の段階に応じて望ましい姿を示したものです。これを基に各学校で指導を進めながら家庭に働きかけていくものです。

こちらの家庭学習の手引きと生活習慣表を基にしながら学校教育と家庭教育とが連携し、相互補完するという形で取り組むということで、名取の子供達の健やかな成長・確かな学力の向上を目指していきたいと思っています。

山田市長

ただ今、事務局から説明がありましたが、ご意見をいただきたいと思います。いかがでしょうか。

読書時間が10分以内というのもあり、なかなか家庭での学習習慣が身につかないという親の悩みは常にあります。家庭学習の手引きは本年度に配布しています。生活習慣表に関しては来年度配布の予定です。非常に分かり易く良い中身だと思います。

瀧澤教育長

学校教育課長から話がありましたが、「確かな学力向上」の推進事業ということで28年度から市から予算をつけて頂き、秋田の視察、学校教育指導専門員の配置等ありがたいと思っています。

秋田が良いか悪いかの議論はありますが、その中で研究主任の先生方の意見で、名取で統一した家庭学習の手引きを作ろうという機運が盛り上がってきたことが、私は非常にうれしく思っています。

どこの学校でも家庭学習の手引的なものを作っていますが、名取市で統一し、家庭学習は大事だということを先生たちが秋田の視察をして認識し校長会、教育委員会を含めてこれを作れたということは非常に良かったと思います。

問題はこれをどう定着させるかということですが、家庭学習では低学年は習慣付け、やる気をださせて自主性を育てるということは、私の経験から振り返ると、年度初めの4月頃はかなりやりますが、2学期夏休み明けは段々少なくなります。

宿題はノートでやってきますが、高学年は、自主勉強を課題にすると4月5月は20人いたら毎朝20冊近くノートがあがってきます。毎日見て返すことが大変ですが、その時、子供達に継続してやる意欲を持たせるため、先生たちがきちんとみてコメントを書くのですが、なかなか時間が取れません。私は2冊ノートを用意させて、1冊出させてそれを預かり次の日までチェックして返し、もう1冊は子供が次の日に出すようにしないと、子供が朝出して帰りまで返すのは厳しいですが、何かコメントを一言でも書いてあげるのとあげないのではやる気が違ってきます。

自分で考えて勉強してほしいと言っても分からないので、やり方を教えるという事も学校で、きちんとやらなければならないと思います。自主勉強をやるのだったら、こんなものもありますよというのも一回指導してあげないとなかなか難しいかなと思います。

これを作ったというのは、家庭と連携し、各学校の授業参観でPTAとのやり取りでやって行くのでしようけれど、各学校で今年1年間どう活用したか検証しながら、来年度もこちらの方の活用も含めてやって行かなければならないと思います。

生活習慣については、家庭学習とは違いますが、何でもかんでも学力に結び付けるのは好きではないですが、基本的な生活習慣できちんとしている子は比較的学力もきちんと身につけている傾向にあるのは間違いがないと思いますし、人として大人に成長していくにあたって基本的な生活習慣が非常に大事だと思います。

また、最近問題になっているテレビやゲームスマホの問題を含め、教育委員会でも関わって取り組んで行かなければならないと思っています。

山田市長

佐藤委員 何かありますでしょうか

佐藤委員

家庭学習については、問題は中学校です。小学校は、担任が毎日の学習量と宿題量は把握しているので調整ができますが、中学は各教科ごとに出しているもので、一時期に集中してパニックになったりすることがあります。実は、そのことと関係なく、各教科でこれはしなければならないというようにやっていますが、その辺は、中学校の先生方の意識を変えないといけないと思います。

山田市長

そのことは、トータルでコントロールできるものなのですか？

佐藤委員

出来ないと思います。秋田の例で見ると、宿題を重視するものではなく、自主勉強、自主学習を重視し、自分で自分興味がある勉強を深めることを重視してやっているとは受け止めています。特に中学校の教員は、自主学習を奨励してやっていかなければならないと感じています。

私は専門が英語ですけど、予習や単語調べがありますが、教科書 1 ページに対してノート 4 ページやらせて、4 ページ目は自主的にやってよいとして、単語練習したければ単語を書いてよいし、自分で作文を書いてもよいし、詩を書いてもよいし、4 コマ漫画を描いてもよいという形でやっていくと、そこが 1 番生徒とのコミュニケーションを取ることができ、生徒の創造性を活かされると思います。

コメントを添えてやることで、子供達はルーティーンの部分ではなく、創造性や個性を評価してあげると自信が付くと考えています。自主性を尊重してやって頂ければ、ありがたいと感じています。

その他、生活習慣はガイドラインが必要であり、繰り返し声がけしていくことが大事だと思います。スマホなどが普及していて、小学生でもかなり持っていますし、実際、子供がどんなことをしているか把握出来ていません。親は生活に必死、共働きで仕事もあり、なかなか自分の子どもの生活が把握できていない状態で、親も学校も悩んでいることから、粘り強く提言していくことが大事だと思います。

#### 山田市長

現場を知っている方の重みのある言葉、ありがとうございました。

その他、いかがでしょうか。

自主学習、自習勉強が大事というのは、おそらく教育長が先程話していましたが、校長先生方と話した際、その話は出ていました。学校によっては、自主学習をした時間を記入する学校があります。よし悪しは別に、宿題だけではなく自分でどれだけ勉強をするかということが、特に中学校からは差が付いて来ると思います。

これを進めていくには、ご家庭ではいかがものでしょうか。

#### 浅野委員

秋田では、家庭学習が充実していることだそうですが、それはどうして家庭学習が充実していると言われているのでしょうか。

#### 学校教育課長

三世代同居の家庭多く、祖父母がしっかりと勉強見ていてくれて、学校の先生方へ信頼が高く、先生の言うことをきちんと聞きなさいと言うことを教えているからだと思います。もちろん、それぞれの地域のもっている課題は違いますし、良さがそれぞれあると思いますが、よく言われるのが、おじいさん、おばあさん方がしっかりと家庭、子供達を見ていることが多いのではないのでしょうか。

それから、秋田の先生方は、授業自体も考えさせる授業をしていると言われ、家庭に課題として、自主勉強で今日学校でやったことの発展としての自主的な課題を子供達に課し、それを踏ま

えながらまた学校に戻しています。

子供は、家で今日習った勉強・復習をやって、また新たな疑問・興味が湧いて、それを学校に持って行くと授業に活かされ、やって良かったと思うようになります。インセンティブな感じで、課された宿題ではなく勉強したことが授業に活かされているということで、相乗効果がどんどん活かされ、自分の学びの質が高まって行くのではないかとされています。

山田市長

名取でも同じようなことが課題ですね。

相原委員いかがですか？

相原委員

やはり今の話を聞くと家庭ではなく、どう学校の教員が仕掛けるかということになって、その意味では教員の負担があると思います。

核家族化が進み共稼ぎで、家に帰っても親はパソコンやりながらで、子供の学校の話も中途半端にしか聞いてない親も居そうな気がしています。あまり極端な事ではなく、粘り強く家庭に周知徹底して行くしかないと思います。子供の自主的な学習に繋がるような仕掛けを、どうやって学校の授業の中でやっていけるかということだと思います。

山田市長

今、置かれている環境のなかで何ができるか、ということですね。

洞口委員、何かありませんか？

洞口委員

望ましい生活習慣ということで、「早寝 早起き 朝ごはん」というのがあります。先生方は、小学校の場合お便り帳の交換をしていますが、まず、生活の習慣が大事で、その次が勉強だと思っています。

そこで、「早寝・早起き」の時間で、そうゆうものをチェック出来る先生がいればと良いと思います。そうすると、どうしてこんなに遅い時間に寝たの？ゲームしていたから？ということで、それではゲームは何時位まで、宿題は1時間しましょうと、約束事も出てくると思います。

資料2中2・3で、新聞記事やニュースについて家庭で話題にするとありますが、中学校でも大事ですが、小学校中学年から触れても良いのではと思います。今、朝日新聞や河北新聞でも子供新聞がありますので、家庭で取っている方も居ると思いますし、そのような話題にしたりして、ただ子供に読ませるのではなく、それでは進歩はあまり無いかなと思います。学校の方でも、そのような話題も先生の方でも話して頂けたらと思います。

山田市長

学校で行っていますね。

学校教育課長

特に指定はされていませんが、行っている学校もあります。

瀧澤教育長

聞くところによると、新聞を取っていない家庭も結構多いです。携帯で見る子供さんも居ますし、テレビの番組もリモコンでデータを見ることもできるので、新聞をとらない家庭もあります。やはり、活字を見るということが、洞口委員が言ったように今大事だと思います。

山田市長

何か他にありましたら。

瀧澤教育長

地域学校協働活動もそうですが、PTAとの連携等がポイントになっているところであり、この家庭学習・生活習慣は、地域というよりPTA・保護者との連携、PTAのいろいろな取組とも関わりやって行き、各学校が実際やっていると思いますが、考えて行かなければと思います。

山田市長

地域学校協働活動で、例えば地域で解決できるのは地域で解決、結果として教員の負担も減り、それが授業研究や子供に向きあう時間に充てられると、家庭学習とか改善していく要素があるので、いずれどちらの問題も、学校地域家庭がしっかり連携し行政も入って進めていくことが課題でということで、まとめとします。

それでは今日はよろしいでしょうか。その他いかがでしょうか。

何か事務局ございますか。

大友教育部次長兼庶務課長

事務局からは特にございません。

山田市長

本日は大変お忙しいところありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

大友教育部次長兼庶務課長

本日は、大変活発な意見交換をしていただき、ありがとうございました。

以上をもちまして、「第8回名取市総合教育会議」を終了いたします。

大変ありがとうございました。

終了時刻

午後2時30分